

「JENESYS2017」2017 年度中国高校生訪日団第 1 陣 参加者の感想（抜粋）

Aコース第 1・2分団（千葉県、北海道）

○わずか 9 日間の日本訪問でたくさん感想を持った。学校訪問ではいろいろな部活動や試合があつて羨ましいと思った。彼らの試合成績はそれほど良くないが、苦しさに負けず一生懸命やるという精神力を培っている。私も今後の生活や仕事の中でいろいろな活動に参加し、強い心を養わなくてはと思った。それに日本の学生は明るく気さくで、私達のように内気ではない。そんなところが大好きだから、自分も彼らのように明るく親切になりたいと思う。今回の訪問で中日の違うところと似ているところをたくさん見つけた。中国も日本も古代からの文明を受け継ぎ、茶道や建物などよく似た文化がある。違うところは、日本人は静かだが中国人は賑やかなのが好きで、気性も違う。また日本ではゴミ箱をほとんど見かけない。帰国したら日本で見たことを多くの人に伝えたい。少年強ければ国強しだ。また日本人はとても規則正しく細部に気を配る。細部が成功と失敗の鍵なのだ。現代中国の青少年として、良いところは取り入れ、中日友好を一層深めたい。日本の細部で一番印象深いのは歩道だ。歩道の片側半分は歩行者用、もう半分は自転車用だ。人が歩く歩道に敢えて自転車用の通りも設ける、これが細部への気配りだ。

○数日間の交流と訪問を通し、中日友好交流に対する日本政府の熱意を感じた。そして日本の風土や人情、科学技術の進歩発展により近く接することができた。中でも 2 度の学校訪問はとても印象深い。日本の学生は温かく迎えてくれて、皆明るく活発で、私達の距離もぐんと縮まった。また教室の授業では、日本教育の先進性と開放感を味わった。いろんな部活動、独自の学校文化、その幅広い教育にすっかり感心した。それにこの 2 校はどちらも中国語の授業がある。日本の学生が積極的に中国文化を学んでいるのを見てとても感動し、温かい気持ちになった。確かに中国は日に日に台頭する超大国として、ますます世界中の多くの国々に受け入れられ、手本にされている。だから経済力を強化すると同時に、国民の文化的水準と品性を高め、総合的な国力の強化を目指さなくてはならない。日本の科学技術の成果や教育重視の度合いも中国の手本になるだろう。そして今回訪日した私達学生も、友好交流の使者として積極的に両国の友好を発展させていきたい。

○訪問活動で、皇居二重橋、支笏湖、アイヌ民族博物館等日本の伝統文化や自然の景色を参観し、二つの学校と友好交流をした。また“無電柱化”“都市デザイン”という二つのテーマについてもいろいろ分かった。この活動では得る物が多く、大きな収穫になった。

2 回目の学校交流で、栄養に関する専攻学科があることを知った。栄養管理を今後の努力目標にしようと思う。日本の高校生のパフォーマンスを觀賞し、彼らの 100%の努力、日本語で言えば「一生懸命」な心を感じた。これは私にはない素晴らしい心意気だ。見習おうと思う。

もう一つ印象深いのは、日本がとても清潔なことだ。公共の場所はどこも清潔で、きちんと片付けられている。いつでも決まりを守っている人達に頭が下がる思いだ。

○日本で学びながら過ごす中で、両国の違いをはっきり感じ、今後の努力目標ができた。日

本の都市は人口密度が高いのに、街は混み合った感じがしない。車の渋滞もないし、交通事故も少ない。中国の大部分の都市はその点引けをとる。車は渋滞するし、交通事故も頻発している。また驚いたことに、東京は想像していたような高層ビルジャングルではなかった。永野真義先生のセミナーを聞いて、その謎が解けた。日本は地下開発が十分なされていて、地下街がビルとビルを繋いでいる。高くもなく低くもなくちょうど良い高さの建物が、同じ所に並んでいるのも壮観だ。

○今回わずか9日間の訪日だったが、とても貴重な忘れられない時間であり、得た物も大きかった。訪問先での交流を通して、日本の科学技術がいかに発達しているか分かった。例えば、北海道コカ・コーラボトリング札幌工場は全自動機械化工場で、巨大な工場に人は何人もいない。札幌市時計台では、古い時計の仕掛けを見て、当時の日本の職人の知恵に感動した。今回の訪日は、今後私の職業にも大きな影響をもたらすと思う。徳を以て人に接するようにしたい。中国と日本にはたくさんの違いがあるが、互いに学び合い、助け合って両国の和やかな友好関係を促していけばいい。このわずか9日間で、私は日本人の品性を知り、科学技術がいかに発達しているか分かった。

最後に、またこのような訪日交流の機会があれば、もう一度参加して両国青少年の友情を育みたいと思う。

○今回日本に来ることができ、とても嬉しい。このように国外遊学するのは初めてのことで、本当に嬉しい。訪日活動中は、いろいろ学んだ。日本の礼儀文化には驚いた。毎日のバス乗降の度に運転手と交わす挨拶、店員の親切で丁寧な対応に、独特の温かさを感じた。帰国したら、私もこのような礼儀正しさを持ち続けたいと思う。日本の企業に対する認識も新たになった。整然と秩序正しい運営、事務処理は細かく行き届き、質問に対しても詰まることなくスラスラ答えが返ってくる。自分の仕事を熟知しているのが分かる。私は正にこのような入念な姿勢を身につけたいと思っているのだ。

学校訪問も良かった。廊下ですれ違う日本の学生達は皆笑顔で挨拶し、私達を温かく迎えてくれた。違う国でも交流に不自由な感じはなかった。特に一部の学生は中国語を学んでおり、一緒に中国語の授業に出て中国語を教えてあげた時は文化の温もりを感じ、彼らといるのが心地良かった。

日中の違いはいくつかあるが、例えば道路の清潔さなどだ。今回見聞したことは心に深く残っている。これを中国のクラスメイトと分かち合いたい。私が一番好きだったのは支笏湖だ。水面が青く透き通り、遠くの山と調和して穏やかで尊い美しさを見せている。湖面を吹き抜けるそよ風に、心がとても落ち着き、その心地よさを存分に味わった。

とにかく訪日活動でいろいろ学ぶことができた。日本文化の体験、伝統文化、出会った学生達や美しい街並みなど、私は中国のクラスメイトにこれらのことを話そうと思う。

○この訪日で日本の高校生と交流し日本文化を体験し、いろいろな景色を目にした。日本の高校生と交流する中で、彼らの熱意を感じた。今回のために、十分な準備をしてくれたのが分かった。2日間、日本の学生と楽しく過ごした。言葉は通じないが、とても楽しくリラックスした雰囲気だった。別れの時、日本の学生が手を振って名残惜しそうに見送ってくれたが、私達も同じように別れの寂しさを感じていた。

日本文化の体験では、北海道の温泉旅館や浴衣、日本式の食事などが独特だと思った。ソーラン節に合わせて楽しく踊ったり、アイヌ民族の舞踊や音楽も楽しんだ。このような特色ある文化に触れたことは特別な思い出になった。

支笏湖や小樽運河、札幌市時計台などの景色も、今回の訪日活動に彩りを添えてくれた。これら自然や文明の景観は、日本の文化やその姿を現していて、私達は異国情緒を満喫できた。

その他“都市デザイン”のセミナーでは日本の教授の話聞いて質問し、新たな気付きと発見があった。

○一番印象深いのは、日本の学生達の熱意と友情だ。1日の交流が終わり、千葉県立船橋古和釜高校の学生達が、皆でアーチを作って見送ってくれた。アーチを抜けると桜吹雪が撒かれ、バスが動き出した後もずっと追いかけてきてくれた。とても心に残り感動した。私は今後、人と付き合う時、熱意ある真心を持ちたいと思った。

今回のテーマ“都市デザイン”に関する見学では、主に建築物が社会問題や街づくりの問題を解決する上で果たす役割と、交通との関連に注目した。建築物が果たす役割については、上野恩賜公園内のデジタルサイネージを見て、このように実用性があるものを設置すれば、少ないスペースでたくさんの情報や機能を提供でき、いいこと尽くめだと思った。

交通の問題については、東京の立体道路が印象深い。にぎやかな街に、鉄道や高速道路が折り重なり、全て揃っている。中国の混み合う大都市にも、便利な立体交通路線をもっとたくさん作れば、空間を十分活用でき、時間も節約できる、素晴らしい選択肢だと思う。

Aコース第3分団（千葉県、長野県）

○学校訪問は面白かった。日本の学生との交流を通じ、日本の学生が考えていることや日常生活についても知ることができた。特に部活動に関しては参考になった。日本の学生と連絡を取り合っていこうと思う。

専門分野に関する見学には、専門的な知識がたくさん含まれており、私達の興味を引き出し、両国文化の違いを理解し、視野を広げ、自分の目標をはっきりさせるのに役立った。

今回の訪問は私にとって忘れられない思い出だ。同年代の友達と知り合い、日本のいろいろな文化を知った。これはインターネットや書物では学ぶことができないものだ。一番印象に残っているのは給食の時間だ。皆机をぐるりと円陣に並べ、互いに向かい合って毎日話しながら食事する。これは中国でやってもいいと思う。

○銚子高校と長野俊英高校の皆はとても好意的で、私達のために十分な準備をしてくれていた。クラスの授業や学校生活も多彩で、とても興味深かった。一番感動したのは、銚子高校の美術部のある女子学生が私達に絵を描いてくれると約束し、放課後、早速教室の外で待っていてくれて、作品を届けてくれたことだ。

また小布施町を視察して、地元の農業を開発して利用したり、住民の意見を聞いて反映させたりといった、特色ある観光業や道路建設計画などが、とても参考になると感じた。

日本の礼儀と“人に迷惑をかけない”という原則は学ぶ価値があると思う。このように、何事も人の身になって考えるという気持ちを生活の中で学んでいきたい。

日本経済は成熟しているが、中国はまだ高度成長の最中で、教育水準、国民の品性におい

ても開きがある。しかし交流し学ぶことでお互い刺激し合い、必ず進歩できると思う。

○日本の高校を訪問して、日本の学生の熱意と友情を感じた。お弁当を食べる時、ある学生がおしぼりを指差して私に何か言おうとしていた。言葉が分からず、彼はしばらく身振り手振りを繰り返して、私はやっとおしぼりで手を拭け、と言いたいのだと分かった。また食後のおやつを買う時、私がお金を持っていなかったため、私の分まで払ってくれた。ゲームをする時、教室に入るなり手を引いて彼らのグループに入れてくれた。これらのことが心に響いた。私はあまり積極的な方ではないので、彼らを見習いたいと思った。ホームビジットでは、優しいおじいさん、おばあさんに迎え入れてもらった。言葉は通じないが、身振り手振りでもいづらか交流できる。心があれば言葉が通じなくても、ちゃんと交流できると分かった。おじいさんといっしょに川辺の道を歩いていると、おじいさんが道に伸びている雑草を刈り取った。このように、人の身になるという考えは学ぶ価値があると思う。日中の違いについては、教育の違いが一番印象的だった。日本の教育は、比較的辛くない方だと思う。中国の受験と違い、日本は大学受験のチャンスがたくさんある。部活動もたくさんあって、プロを目指している学生も少なくない。日本では学生に、できれば何か一つ得意なことを持つように指導している。中国の国情では、すぐさま何かを変えるのは無理だ。その中で今の教育は随分いい方なのかもしれない。

○9月7日に都市デザインに関するセミナーを聞いたが、それまで自分の住む街のデザインなど気にしたこともなかった。その後、実際に小布施町に行き、栗の木を敷いた歩道や、自宅の庭に綺麗な花を植えて開放することによって観光を盛り上げている様子を見学した。しかも住民の意見を広く反映させるというやり方は、一考の価値があると思うし、私もこれに関するをもっと学び、故郷の街づくりのために意見や考えを出していきたい。同時に家族や友達にもそう呼びかけたい。またホームビジットで行った農村も清潔で、道はでこぼこの泥道ではなく、きれいに舗装され、しっかり環境整備されている。田んぼもきちんと区画され、その上観光業まで発展させている。これは、中国の農村が経済活力をつけるのに参考になる。小さい町でも伝統文化と現代建築をうまく組み合わせることができるお手本だ。中国の農村には広く良質の水田があり、発展の可能性を秘めている。日本のやり方を参考に、良いところを取り入れられたら素晴らしいと思う。

Bコース第1・2分団（千葉県、愛媛県）

○今回の訪問では、印象深い場面がたくさんあった。

まず、清潔な道路と高くそびえるビル、礼儀正しく好意的な市民、整然と調和のとれた東京の風景は忘れ難い。また、愛媛県の自然と文化が融合した美しい緑溢れる田舎の景色は、宮崎駿のアニメに出てくるようで、立ち去り難い気持ちになった。

愛媛県でマイントピア別子へ行った時、ある忘れられない出来事があった。お土産の風鈴を一つ二つ選びお金を払おうとしていた時、訪日団を迎えにきた園内列車が到着し、皆慌しく乗り込んだ。風鈴を簡単な紙袋に入れてもらい、私も乗り込んだ。すると、あろうことか、その土産物屋の60歳位の店主が、列車がまだ出発しないのを見て、風鈴用の箱を手にもたらして、一つ一つ覗いて私を探し、私を見つけるや風鈴をきちんと包装してくれ、「道中長いから、これで少しはましでしょう。」と言ったのだ。その時私は感動で震え、感激で胸がいっぱいにな

った。これが今回最大の収穫と言えるかもしれない。私達が皆他人を思いやり、たとえ小さなことでも心を込めて何かをしてあげれば、いろんな社会問題はたちまち解決し、社会は更に効率よく、早く、人々の生活によりふさわしい発展を遂げるのではないだろうか。

帰国したらまず自分から始めよう。近い将来、今よりずっと便利で、快適な生活を手に入れることができるかもしれない。生活が良くなっていけば、改善しようという思いも尽きることはない。

○日本の企業は将来的なビジョンがはっきりしていて、町の古い建築物と新しい建物の調和を重視し、不揃いなものを取り壊したり改善したりする計画も全面的なものだ。日本の学校は規則正しい中に温かみがあり、学生達は会えばお互い挨拶をして、とても礼儀正しく親切だ。それに喜んで人助けをしてくれる。中国の企業の中には都市デザインに関してまだ手抜かりが多いところもあり、新旧建築物のバランスをあまり重視しない。近代的な町づくりのために歴史的価値のある建築物が消されてしまうことさえある。私は今後の仕事や生活に、日本式の丁寧できちんとした物事のやり方を取り入れ、いろいろな方法で関係先に街づくりの問題を伝え、蘭州の街づくりの進展を促したい。

印象深いのは日本の運転手が礼儀正しいことだ。どんなに渋滞していても車間距離を1～2m保っていて、車が移動しても変わらない。日本の交通は秩序がある。赤信号で突っ込む人や、歩道を歩かない人はいない。歩行者用信号が青になれば、直進の車、左折右折の車も止まり、とても安全だ。

○日本:積極的、丁寧、好意的。

積極的な礼儀。訪日の間、毎日いろいろな人が挨拶してくれた。バスの運転手、随行の先生、レストランの店員、学生達も皆自分から進んで挨拶する。私は、知らない人にも心から敬意を表す日本人の教養と品性を感じた。帰国したら、周りの友達と私が見たことを共有し、礼儀を培い、自分の品性を向上させたい。まず自分から始め、周りの人を感化して、皆一緒に人格を高めたい。

丁寧な段取り。来日後、日本のスタッフが1人1冊ずつ活動のしおりを配ってくれた。内容はとても詳しく、説明会の座席や、学校訪問のグループ分けまで載っていた。日本人の物事のやり方が、いかに丁寧かを心の底から感じた。これは、帰国後の私の学習や生活に大きな影響を与えると思う。勉強や何かする時は、きちんと時間を考えて計画するようになるだろう。

人に好意的。日本人は人と接する時、好意的で、親切で我慢強いと思う。学生は中日の高校の違いを和気藹々と話し合い、私達の参加を心から誘ってくれる。先生は毎日親身になって皆に説明したり、注意を促したり、健康を気遣ったりしてくれる。今後の生活の中で、私も人には好意的に接するように、家族や先生、クラスメイトと共に努力したい。

○感想:全体的に言えば、街の構造や特徴によって、それぞれその土地に合ったやり方がある。地理的な位置や、どのような所なのかも考慮しなくてはいけない。歴史的建築物の保護に関しては、改造や修築を含めた、さまざまな活用方法が考えられる。日本の学生は、とても活発で元気があり、積極的で自分から進んで交流し、礼儀正しく親切で、人助けも喜んでするし、とても可愛い。教室での授業はとても面白く、活気がある。学生も協力的で、役割分担

ができていますので、早く効率よく授業が行われる。学校は学生の興味や関心を重視し、学生が楽しく学べるようにしている。

参考になったこと：街の緑化面積を広げ、清潔感を高め、文化交流を深め、科学技術を発展させ、人々の品性を高めていること。

異なること：中国の教育は文化の授業に重きを置き、競争させる。日本の教育は学生自身に重きを置き、個々の成長を促す。

同じこと：どちらも高齢化問題に直面している。どちらの国民も皆健全な両国関係の進展を願っている。

印象深いこと：美しい環境、品性ある人々、礼儀正しい日本人、楽しいクラス授業、大都市は人口が多く、地方都市は人口が少ない。

○愛媛県立松山南高校の学生や先生達がとても親切で好意的だった。皆私達を迎えるために、一生懸命十分な準備をしてくれていた。授業は念入りに計画され、クラスの雰囲気ものびのびして活気があり、ゲームを通して新たな知識を学んだ。いろいろな部活動があり、学生は興味や関心を存分に発揮できる。今後、私は1人の学生として、日本の学生の真面目さを見習いたい。そして彼らのように、何事もまず人を思いやることができるようにしたい。親切は巡り巡って自分に返ってくる。中国の先生達も活気ある授業をしてほしいし、学生の気持ちも考えてほしい。

日本も中国も伝統的な礼儀の国だ。古くから道徳や礼儀を重んじ、悠久の歴史や文化を持ち、いろいろな共通点がある。日本人はどちらかと言えば、積極的な向上心を持ち、中国人は実直で勤勉な方だ。印象深い出来事は私が病気になった時に起こった。日本に来てから、食べ物の違いか環境の変化のせいか、気候風土に適應できず、ホテルで1日休むことになった。随行の先生が残って私の世話をしてくれ、家族のような温もりを感じた。

○この訪日ではいろいろな見所があったが、一番印象深いのは日本橋再生計画だ。数世紀を経て日本の象徴になった日本橋だが、明治に入って活気がなくなった。三井不動産が“残しながら、蘇らせながら、創っていく”をコンセプトに開発した結果、日本橋地域は社会システムが整えられ、教育機関、商業施設、科学研究機関が全て揃って、往年のにぎわいを取り戻した。これは都市改造の一成功例だが、私にとっては大きな意義がある。私の故郷、甘肅省渭源県には、中国で現存する最古の木造アーチ橋—灞陵橋があり、700年の歴史を持つ。近年、地元政府は積極的に灞陵橋の保存に乗り出し、灞陵橋は今も渭水に架かっているのだが、この貴重な文化財をどう利用したら地元の経済発展を促進できるか、というのが一つ問題だ。今回、日本橋の見学で刺激を受け、灞陵橋の有効利用について自分なりに考えることができた。

中日両国は一衣帯水だが、大きな違いがある。日本はほぼ温帯気候に属し、細長い地形で、島と山地が多い。しかし、中国の気候や地形はもっと多彩だ。自然環境の影響で、食事の習慣もすべて同じというわけではない。日本の料理は、冷めたものが多い。それから、日本の箸は先が尖っているが、中国の箸は先が丸くなっている。日本の車は左通行だが、中国の車は右通行、中国人にとって“9”は縁起の良い数字だが、日本人は“9”を忌み嫌う。両国の文化には大きな違いがあるが、共に多彩な世界家族の大切な一員なのだ。

○この訪日活動に参加できて、とても嬉しい。この活動を通し、大いに刺激を受けた。

学校訪問で印象的だったのは部活動だ。皆生き生きとして面白そうだ。自分の興味ある部活動を選び、情熱を持って打ち込む。このような部活動には団結力と瞬発力があり、とても憧れる。

都市デザインのテーマに関する見学では、今まで接したことがないことなので、漠然として面白くないのではないかと思っていたが、先生の話聞いて興味が湧いた。後からノートを見直しても面白く、いろいろなことが分かった。

日本の街を歩いていて、何か変だなと思ったら、ゴミ箱がない！でも道路は本当にきれいで、ゴミ一つない。だから私は“ゴミは持ち帰る”習慣にした。この考えを家庭やクラスに広げたい。そうすれば、生活環境がもっと美しく清潔になるだろう。

一番印象深いのは、日本人の挨拶という礼儀だ。日本人は皆親切で礼儀正しい。私も知らない人に挨拶する気恥しさが消えて、いつでも心から人に挨拶できるようになった。今後、更に日本文化を深く理解し、しっかり学び、もっと素敵な人になりたい。

○この訪日で、日本のいろいろな面をたくさん体験した。例えば日本建築の多様性や合理性、日本料理の繊細さと美味しさ、地元の人達のマナーと思いやりなどだ。中でも一番印象深いのは日本建築だ。

日本の大学の先生による「“人間のための都市と”とその次へ」というセミナーを聞いて、日本の都市デザインの初歩的なことが分かった。それは、ル・コルビジェとジェイン・ジェイコブスの考えをミックスしたもので、高層ビルが立ち並ぶ中にもあちこち緑があり、役割分担されている街づくりだ。その後の実地見学や、通訳の先生の説明でも、私は日本の建築を意識するようになった。そして、自分なりに考えがまとまった。

日本橋：“残しながら、蘇らせながら、創っていく”（三井不動産）。日本橋の歴史は古く、1603年に初めて作られてから現在に至るまで、いろいろなことがあり、発展しながら新たに生まれ変わってきた。

再生計画：段階的改造。この計画は、昔の日本橋が現代的に生まれ変わる上で、重要な役割を果たした。特に、第二段階の四つのキーワード：産業創造、界限創生、地域共生、水都再生。この四つの言葉は、日本橋で元々改造が必要だった所と今の日本橋の現状を総括しており、私達のテーマにとっても大きなヒントになった。

内子町：“現代都市の文化財保存”。昔の大家族の屋敷を保存対象にし、文化遺産を今に残すという考えには感心した。日本では、文化財建造物保存にも創意工夫を凝らしていると言える。有名な庭園を開放して見学できるようにすれば、人々が歴史的建造物を知り、更には日本文化を広め盛り上げることになる。

要するに、私の心に描く都市デザインは、日本橋地域に似たものだ。住民を包み込み、環境を守り、内子町のように文化財を保存活用する町だ。

Bコース第3分団（神奈川県、大阪府）

○神奈川や大阪の高校に行き、多彩な部活動があると知った。例えば剣道、弓道、柔道、茶道など、学生の総合的な能力を高めるのに必要なことだ。帰国したら、部活動の種類を幾らか増やすよう、学校の学生委員会に積極的に提案していきたい。私達の学校の部活動計画には、まだ足りないところがあると思う。1日の学校生活の中では授業時間の比重が大きく、

自分の興味や関心を伸ばす十分な時間がない。日本の学校の時間割りは、参考になると思う。また歴史旧跡を見学した時は、両国の古代文化の切っても切れない関係を知り、日本の戦国時代も中国と似ていると思った。

今回一番印象深かったのは、街がとても衛生的なことだ。環境衛生は中国にとって重要な問題だから、いろいろ考えさせられた。中国は清潔な街作りのために、衛生面での取り組みをすべきだと思う。

○神奈川県立厚木高校を訪問して友達ができ、一緒に勉強したり、面白い実験をしたり、授業を通して互いのぎこちなさがなくなり、楽しく勉強できた。一番印象深いのは、私と同じくサッカーが大好きな4人の日本の高校生と知り合い、好きな選手や自分の得意技について話し合ったことだ。サッカーに国境はないと感じた。続けていろいろ話をするうちに、高校生活にも違いがあることが分かった。中国では、自分の好きな活動をする時間は少ないが、日本では十分な時間を取っていることや、中国は寄宿生活が一般的だが、日本は家から通っていることなどだ。一番印象深いのは、和太鼓の体験だ。初めて和太鼓の音を聞いた時、全身が震えた。太鼓の先生の力強い音が直接心に響き、大きな芸術のオーラに包まれた。今後、日本で覚えた礼儀を忘れず、経験し学んだことをまとめ、生活の中の小さなことにも気を配るようにして、しっかり頑張ろうと思う。

○正に噂通り、日本の道路にはゴミがほとんどなく、きれいで清潔だった。日本科学未来館では、未来の科学技術と環境保護について、ふと考えた。中国ではまだ“一に経済、二に環境”というやり方の所が多いが、それをそのまま続けていって次の世代に何を残せるのだろうか？また ATC エイジレスセンターで私は一番衝撃を受けた。高齢者や障害者用設備の展示館だが、見学者に実際、老人が階段を上り下りする感じや車椅子の障害者、介護者の苦労を体験してもらい、これらの設備が必要だと感じてもらうのだ。階段を上り下りできる車椅子や、車椅子の人のための移動式洗面台、孤独な高齢者を癒すアザラシ型ロボット、これらの発明は私達若者でも素晴らしいと思う。ここを見学して、身体が不自由な人でも楽しく暮らせると思えた。これらの発明は、介護者と被介護者双方の心と身体をケアするものだ。日本人の細かい心遣いは、世界をも驚嘆させる。しかし、ある先生の話で、日本人は仮に事故が起こるかもしれないと分かっているにもかかわらず、実際事故が起きて初めて改善策を考えることもあると聞いた。だから危険かもしれないことに対しては、よく考えて人の意見も聞き、危険を未然に防がなければならない。

○今回の訪日で視野が広がり、感じるものがたくさんあった。

まず学校訪問では、事前に日本の学生は恥ずかしがりだと聞いていたが、実際はそうではなかった。彼らの熱意に感動した。私は日本語ができないので英語で交流したのだが、日本の教育水準は高いと感じた。

“都市デザイン”がテーマのセミナーでは、日本の先進的な考えに驚いた。特に“連鎖型の都市デザイン”の“時間のリレー”“景観のリレー”“にぎわいのリレー”という三つの観点は、正に中国の今の発展にふさわしい。私の故郷では、歴史的価値のある東駅の時計台を取り壊し、それほど使わないようなオフィスビルを建てた。このことから、中国の先進都市理念が不充分であると感じ、同時にその重要性を感じた。

以上 2 点が訪日活動で印象深かったことだ。